

## Challenger 2022 年を振り返るー

2022年も残りあと1カ月を切りました。皆さんにとって今年はどうな1年になりましたか。本連載は、2021年12月から始まり丸一年となりました。登場したChallengerは総勢46人。それぞれが「挑戦」する姿は、とても輝いていて、取材に伺う度に「自分は何かに挑戦できているだろうか」と自身を振り返るきっかけになったように思います。お話を聞かせてくださったアスリートの皆さん、本当にありがとうございました。



F2リーグで得点王に輝き受賞したトロフィー

### Profile

- 生まれ / 2005年8月16日、滝根町
- サイズ・ポジション / 173cm、MF
- サッカー歴 / 小学1年から中学3年までピアンコーネ福島、高校1年からいわきFC U-18。
- 学校 / 滝根中学校→いわき光洋高校2年

## 挑戦者 -番外編2-



いわきFC U-18 所属  
**大河原 秀速**  
Shuto Okawara (MF)



世界で通用する身体と技術、優れた

今回、1年の振り返りのタイミングでお話を伺ったのは、今年の2月に登場してくれた大河原秀速さん。大河原さんが所属するいわきFC U-18は「高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2022福島」でF2リーグ優勝・F1リーグ昇格を決め、大河原さんはリーグ得点王となり、目標を一つ達成しました。入団2年目の大河原さんにとって2022年はどんな1年だったのか、そして2023年はどんな1年にしたいのか、お話を伺いました。

## 挑戦者 -番外編1-

### Interview

福島スターズ (古希野球)

Profile 中田 耕二さん (70)

昭和27年5月30日、郡山市生まれ、常葉町在住。小学4年生から野球を始める。現在は、郡山オールドボーイズ (遷暦野球)、福島スターズ (古希野球) に所属。ポジションは中堅手、三塁手、投手など。憧れの野球選手は長嶋茂雄。



10月28日、11月1日に「全日本古希軟式野球大会」が大分県で開かれ、田村市から中田耕二さん (常葉町在住/福島スターズ所属) が参加し、チームはベスト16進出を果たしました。大会に出場した感想や、長きにわたり野球を続けている思いなどを伺いました。

「全日本古希軟式野球大会出場！」  
これまでも、これからも。生涯現役



全国大会は地方大会の雰囲気と違い、相手の状況が分からない場合が多いのでとても楽しいですね。今大会はベスト16に進出しましたが、準優勝したチームに負けてしまいました。実力は大きな差はないように思いますが、チャンスの時に打てたか打てなかったかの差で負けてしまいました。大会後には、メンバーで開催地を観光するのも醍醐味の一つです。

とまりのあるいいチームでしたが、正直、そこまで勝ち上がれると思っていまへんでした。7点差を逆転勝利し、決勝進出した試合は今でも印象深く残っています。野球を続けて約60年。振り返ると野球ばかりの人生でしたね。家族も諦めていますね (笑)。子どもの運動会よりも「野球」なんてこともありました。野球をやっているからしたら働く意欲もなかったから仕事も頑張ってきた。野球を続けてきて良かったことは、健康ですと好きな野球を続けられているということ。野球が本当に大好きで

す。また、野球から学んだことは、健康維持が大事だということ。野球をやるためには健康でいなければならぬ。食生活も好き嫌いなく、飲みます (木曜日は休肝日)。女房がいろいろと考えてくれて、感謝しています。幸いにも病気になる病気をせずにここまでやってきました。今でも家に入る前には、必ず素振りを入れます。回数は決めていないですが、その日の調子に合わせてやっています。

若い世代に向けて  
ケガをしないで、好きなことを続けること。なんでもいから自分が好きだと思つたことは続けてみてほしい。例えば試合に出られなかったり、レギュラーになれなかったりしても、続けていくことが大事だと思う。いつ花開くかは分かりませんが、また、大人になってからの競技の楽しみ方は変化していきます。一緒に活動する人の年齢層も変わるし、そのなかの関りで勉強になることはたくさんあると思います。



大好きな野球をともに打ち込む福島スターズの仲間と

### プロで活躍するためにー

チームとしては、目標であった福島県リーグでF2リーグ優勝・F1リーグに昇格できて本場に良かったです。チームワークが高まってきたと感じています。個人としてもリーグの得点王を目指していたので、しっかり達成できて良かったです。しかし、結果として得点王になることができませんでした。大事な場面で点を決められないシーンがたくさんありました。実際に、東北クラブユース (U-18) サッカー選手権大会では、自分が点を決められずに全国大会出場を逃して悔しい思いもしました。また、同世代の選手の活躍を見ると、見えない大きな差を感じ、自分に足りないところがたくさん見つかり、今のままではいけない、一つ一つの練習をもっと意識して頑張らないといけないと感じるシーンとなりました。



新井 健太 監督

来シーズン、チームとしての目標は福島県リーグで再び優勝・昇格すること。さらには、東北クラブユース大会で優勝し、全国大会に出場すること。個人としても浮き沈みがありますが、彼なりに考え、乗り越えた一年だったのではないかと思えます。来年に向けては、「行動」でチームを引っ張っていく選手になってほしい。ポジションも前の選手なので、背中で語れる選手になることを期待しています。